

デジタル教科書・教材を用いた言語力、思考力を育てるための方法（その1）

小学部高学年グループ 佐渡 雅人・太田 康子・青田 豊樹・吉野 賢吾

小学部では7月から高学年（5、6年生）全員にタブレットを配布し、デジタル教科書を使用した授業を始めている。教員側としては、今までもパソコンやタブレットで教材を作成し授業に用いていたが、児童がタブレットをもって授業に臨むことは初めてのことである。まだタブレットを導入して半年ではあるが、その効果と課題について現段階での様子を報告したい。

また、近年人工内耳装用児童がかなり増加していることをうけ、人工内耳装用児に対してのタブレットの有効活用についても実践し報告していきたいと考えている。

キー・ワード：デジタル教科書 タブレット使用 人工内耳装用児の言語力・思考力を育てる

1 はじめに

人工内耳装用・補聴器装用の2グループについて、それぞれ小学部作成の言語力チェックリストから「課題がある」「課題がない」グループに分け、デジタル教材（教科書）を使用してからの様子・言語活動の様子を観察・調査し、比較することで、デジタル教材のより良い使用法・教材作成の方法、指導法などを探る。

2 対象児

小学部高学年グループ5、6年生23名全員が対象ではあるが、下記に示すターゲットとなる児童を選択し、指導による変容を観察する。

Table 1 ターゲットとなる児童

	課題がある	課題がない
人工内耳装用児	A、B、C、D	G、H、I、J
補聴器装用児	E、F	K、L、M、N

・表のように、各クラスから2～3名ずつ「授業に興味関心が少なく、話を聞いていない（下を向いている）ことが多い」「心情理解など抽象てきな理解が苦手」など特徴的な児童を令和3年度に小学部で作成したチェックリストから抽出し、4分類し観察調査を行う。

・中間層〈言語力に関して問題はないが、力があるとは言いきれない〉は対象ではない。ただし、同時

に指導の様子を撮り、実態を把握しておく。

・対象児Cは漢字の細かいところの認知が弱いなど別の課題もありそうなので、担任が今年度WISC-IVを実施する。

3 研究計画

時期	研究
10月	・研究計画作成 ・アンケートの実施（タブレットの操作が好きか嫌いか） ・教材（3作品）の作成
11月	・指導1 ベースラインを設定。 ・指導2 視覚的配慮をした教材を作成し、指導を行う。 ◎指導助言者に研究経過とビデオを提示し助言をもらう。
12月	・指導3 各クラスでターゲットになっている児童について調べる。 チェックリストを再記入し、変化点を検討する。
1～3月	・研究のまとめ ・報告書作成

4 高学年児童の実態

⑴ 対象児のタブレット使用の様子

	課題がある	課題がない
人工内耳装用児	A、B、C、D	G、 H 、I、J
補聴器装用児	E、F	K、L、 M 、N

網掛け太字はタブレットが苦手、白抜き字は大好き

どちらかと言語力に課題がないタイプの中でタブレットに対する苦手・好きという評価が大きく分かれる。言語力に課題があるタイプでは、タブレットに対する好き嫌いは特に見られなかった。

言語力に課題があるグループの児童はタブレットを一応触るが、それほど興味がない（学習の時しか触らない）または好きでない場合が多いようである。特に、当初ターゲットとした児童Aは会話をよくし、話し合いの中でいろいろな意見を言えるのだが、集中が続かない・適当・曖昧な理解 という実態がある。

この言語力に課題があるグループには児童Aのようなタイプの児童が多いような気がする。彼らが興味をもつような教材、題材を作成して提示した時の反応を調べ、その結果、集中が長続きし、話し合いに最後まで参加し、自分の言葉で理解したことをまとめることができれば、今後言語力だけでなく、態度面でも実態が向上することになる可能性があるのではないだろうか。また、上記のような教材教具は、聴覚障害児教育において、「聞こえてはいるのだが、なかなか集中せず話し手を見ず、言語力に課題がある児童」という実態の児童に対して、学習テーマに興味をもたせるための有効な教材となり、言語発達に効果を上げる可能性があるのではないだろうか。

言語力に課題があるグループの実態としては、「読解が苦手」、「話を見ない」、「集中を欠く」などを挙げるができる。児童ABCDEFが共通して興味ある事柄（である「スポーツ」「命」などを考えると、道徳の教材を使用することが良いと思われた。

5 指導方法

(1) 方法

道徳教材を4コマ×4行＝全16コマにリライトする。

（5年「手品師」など3作品を作成）2作品で練習し、様子を動画で撮り、言語力に課題があるグループの児童の様子をとる。

指導法として、従来通り「本文をそのまま提示する」方法、上記の「本文の内容を漫画にリライトす

る」方法の2方法を提示し、児童の様子を観察する。

・「命」「手品師」の2単元で授業を行い、児童観察し変化、集中、理解などの様子を調べる。

通常の授業〈教科書本文中心〉

・CD音源で提示すると聴力的に厳しいケースの児童が多いので教師が範読提示する。

「命」（道徳 日本文教出版 6）

提示した後、テーマに沿って考える指導

「手品師」（道徳 日本文教出版 6）

指導の流れとしては

- ①テーマについて話し合う。
- ②内容把握（画像提示）
- ③話題の中の課題、登場人物の心情などについて話し合う。
- ④今まで自分が考えていた「価値観」「考え方」を、友達のいろいろな意見を聞き、意見を交わし合うことで考え、深めていく。

(2) 作成した漫画（手品師）

すべてタブレット上での作画である。



6 結果

本文中心授業と、漫画リライトで内容をつかんでからやりとりする授業について下記表のように比較した。

<p>通常の授業 〈教科書本文中心〉 テーマ「命」</p>	<p>〈視覚的配慮（漫画）を用いた授業 授業テーマ「誠実・約束」</p>
<p>「命」 団地で犬を飼ってはいけないことは原則的なルールである。 しかし、死にそうな子犬を放っておいてルールを守ることは適切な態度なのか</p>	<p>自分の夢を選ぶべきか、約束を守るべきか 誠実な態度とは</p>
<p>児童 A の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅で犬を飼っている友達の意見に対し、反応し質問をしている。(積極的態度) ・はじめはルールを守らなくてはいけないという意見であったが、友達の意見を聞き、次第に考える様子が見られる。 <p>〈ゆれている〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後は、子犬を団地の子供全体で世話をするという意見になったが、SKも「命が大切だ」という考えに傾いた。 	<p>児童 A の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「手品師にとっては最後のチャンスなんだよ。」(自分の夢の実現がまず大切) <p>他の児童の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束した男の子をいっしょに連れて行けばいい。約束と自分の夢を同時にかなえる方法を模索するような意見が多い。 <p>「自分の夢の実現」という自分なりの原則から離れることが難しい。</p>



(3) 指導案の例

小学部6年 週報 2021.10.25

題材名: 手品師
めあて: 区別: 注目して、集中して授業に参加できる。
その他の児童: 「約束をやぶってもいいの」について、自分なりの考えを深めることができる。

成り:

活動	児童の発言	支援・評価
<p>★必要に応じて行う紙さぶり</p> <p>寄人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「約束」と書かれた板書を見る。 約束には、どんなものがありますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲームの時間。 ○友達との秘密(内緒だよ)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発言を板書する。
<p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてを知る。 約束はやぶってもいいだろうか。 ・一人ひとり意見を言う。 ・どうして、約束をやぶってはいけないのか(やぶっていいのか)、具体的に言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○約束はやぶっていい。 ○約束はやぶってはいけない。 ○約束をやぶってはいけないとき、その約束をやぶったら友達を苦しめることになるから、約束はやぶってはいけないと思う。 	
<p>「手品師」という話があります。見てみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配られたマンガを受け取り、教師が撮影した1コマずつのマンガを見て、内容をつかむ。 約束はやぶってもいいでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男の人が手品師であること、手品師が約束をしたことを確認しながら読む。 ○子どもの算数板を見た後、約束は守った方がいい。 ○大団地に戻るのが夢で、夢の方が大切だから、約束はやぶってもいい。 	<p>S児: マンガに注目して、集中して授業に参加しているか。</p>
<p>★本番に一生夢がかなわなくても、約束は守らないといけないの?</p> <p>★小さな子どもを養わせて、本当にたくさんのお金を貰えたらいいの? とお母さんと意見を交換してきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことを発表する。 <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習についての感想を言う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童が安易な考えで答えているときには、紙さぶりをかける。 ・教科書に書きがあることを伝える。

評価: 区別: 注目して、集中して授業に参加できた。 ※ビデオで確認。
その他の児童: 「約束をやぶってもいいの」について、自分なりの考えを深めることができた。

本文を読ませる従来の方法も、単に読ませるだけでなく、パワーポイントで本文を読みやすくするなど配慮を行っている。

しかし、二つの方法の授業を展開してみた結果、漫画にして内容を提示した方が児童の内容理解は早く、テーマに沿って話し合う時間を十分にとることができた。本文提示方法であると、本文を読み取ることにより半分（45分授業であると25分程度かそれ以上）の時間を費やすことになり、期待される話し合いや思考を深める時間を十分にとることが難しいことが実際であった。聾学校において、どの教科においても自立活動として行われることが多い読解指導は重要な課題であり、読む活動をないがしろにするべきではない。しかし、道徳は国語ではない。読み取りだけでその時間を終わらせるのだけでは道徳本来の「やりとり」とおして、テーマについて考える・他の人の考えを知る・わかるように説明するなどの言語活動を行う時間が少なくなってしまう。絵を使った「漫画」「紙芝居」「絵本」などのような方法をとることができれば、理解が早く道徳本来の目的のために十分に時間を使うことができるといことが今回の実践で明らかにすることができたと思われる。

7 考察

視覚的な情報提示をする本授業展開で、内容をしっかり把握できたことで言語的な課題がある児童Eが自分から挙手して発言することができた。児童Eは普段の授業の中では、理解できたことのみ発言することが多く、全体で考える場面では発言することがあまりなかった。これは、視覚的な配慮（絵）を提示することで、話されている内容を理解し、本児なりに考えた意見を積極的に表現することができたということであると考えられる。普段の授業では音声を中心とした「会話中心」であるため、本児は内容を理解することが精いっぱい、思考まで進むことができない状態にあると考えられる。また、思考をまとめる時間も読解での時間が多く取られることで少なくなってしまう。言語面での課題がある児童

を含む一斉指導では、視覚的な情報を多用することが望ましいのではないかと思われる。

児童Eの授業参加も見られたように、会話量が、クラス全体でかなり増えている。これは、内容を漫画という視覚的な情報にリライトすることにより、文章ではなかなか内容を理解が難しかった本児が内容を理解することでやりとりに参加することができたということである。内容を理解させる工夫として、漫画などの視覚的情報を教材作成し、デジタル化して提示することにより、教材の整理保管も容易になり、学部全体で共有することができる。

パソコンで教材作成をする時代になって久しいが、視覚的な情報をとにかく提示すればよいということではなく、内容を理解させるための一助として使い、内容理解の後には日本語でのやりとりを行うことで、児童それぞれが自分の思考を文章で考えながら表現したり、聞いたりすることで、日本語の力が伸びてくのではないだろうか。

児童Aについても、傾聴態度が本授業展開において格段に良くなり児童同士のやりとりにも積極的に参加することができた。これは、本児の興味関心をもとに選択した単元内容であったから成功したことは否めないが、子どもの興味に合わせるという＜実態把握→教材選択→教材研究→指導→評価（実態把握）＞というようなフィードバックしながらの指導が、個別指導計画の中に反映され、展開していく今後も必要だと考えている。